

アメリカ大都市 の死と生

J・ジェコブス著 黒川紀章訳
鹿島出版会 A5版 324頁
1,300円

現代都市計画への挑戦

日本の都市も高層ビルがそびえ
たち、その谷間を高速道路が縦
横に走る時代がやってきた。

だが、この経済的、物量的なも
のに重点をおいた都市計画が、
はたして都市に住む人のための
ものといえるだろうか。

著者は、こうした現代人の疑問
に答えるものである。またこの
本は、現代の米国で行なわれて
いる近代的でオーソドックスな
都市計画に対する攻撃であり、
その理論の根本原理と目標に対
する挑戦でもある。

すなわち、都市計画の科学およ
び都市デザインの技術は、もっ
と密度の高い都市の機能に触媒
作用を及ぼし、またそれを充実
させる科学と技術でなければなら
ない。

本書は、「都市の特性」と「都
市の多様性への条件」の2部か
ら成っている。第1部では、都
市における人間の社会的習性について論じるなかで、歩道の用

途・近隣公園の利用そして都市
近隣住区の用途についてのべて
いる。歩道や公園が、その都市
計画の善し悪しを決める場とな
り、とくに街路の役割と日常生
活の関係には、社会学者として
のユニークな考察がなされて
いる。

第2部は、本書の最も重要な部
分である。まず、都市の多様性
の発生源についてのべ、さらに
都市の街路や地区に、あふれる
ばかりの多様性を生じさせるた
めの四つの条件について説述し
ている。四条件とは、混用地域、
小規模ブロック・古い建物と集
中という四つの必要性であると
いい、頭の古い計画家たちは、
人気のある魅力に富んだ所にこ
そ、オーソドックスな都市計画
のあの破壊的な、ごく単調な計
画を強引におしつけるのだと批
判している。

この提案に対しての問題は、そ
れを構造づける建築的方法がい
かにして発見されるか、という
点にあるのではなからうか。

私たちは、いま都市の変革期に
あることを認識し、真の都市づ
くりは、市民のあるいは市民の
ためのものでなく、市民による
都市づくりという市民がつくり
あげたものであるときにのみ、
都市はあらゆる人に対して、なん
らかの役に立つ能力をもつもの
のだということを再確認する必

要がある。

日本の都市構造も、近い将来の
うちには大変貌をとげるであろ
う。これはまさに、著者の指摘
する「都市の多様性」という根
源的な課題にたちもどって、都
市計画を再検討すべき時期にか
かっているのであるまいか。

とにかく、本書の出現を機会に
今後、わが国の都市関係者の間
で、新たな都市づくりの論議が
おこることを期待したい。

<S・T>

あとがき

横浜の接収は、港湾施設の90%、
全市街地面積の27%にもおよ
び復興と繁栄の大きなさまたげと
なってきました。しかし、市民
の地道なたゆまぬ努力によっ
て、接収解除はつぎつぎと進み、
とくに昨年から本年にかけて
は、上瀬谷通信施設周辺におけ
る問題や、ノースドック・根岸
競馬場の返還問題などで、新し
い局面を迎えようとしておりま
す。そこで、今回は接収地問題
を、市民運動との関連からとり
あげてみました。

なお、冒頭の「都市と基地」は
「法学セミナー」臨時増刊号(昭
和44年12月)に発表されたもの
です。転載のご承諾を下された
日本評論社および法学セミナー
編集部に、あつく御礼申し上げます。
<N>

調査季報

24

1970年1月31日

編集・発行——横浜市企画調整室

横浜市中区港町1-1

印刷——有限会社 宮村印刷所

横浜市南区永楽町2-22